



N1 Grid Service Provisioning System ユーザーズガイドおよびリ リースノート (Sun Java System App Server Plug-In 1.0)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-2761-01
2005 年 6 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、Java、N1 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Adobe は、米国 Adobe Systems, Inc. の登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: N1 Grid Service Provisioning System User's Guide and Release Notes for the Sun Java System App Server Plug-In 1.0

Part No: 819-1398-10

Revision A



050606@11223



目次

- はじめに 7

- 1 Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの概要 11**
 - Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの目的 11
 - Sun Java Enterprise System Application Server プラグインに含まれるもの 12
 - Sun Java Enterprise System Application Server プラグインを使用するための要件 12

- 2 Sun Java Enterprise System Application Server プラグインのリリースノート 13**
 - インストールに関する情報 13
 - インストールが失敗したときにログファイルが指定した場所がないことがある (6256822) 13
 - 実行時の問題 14
 - ドメインを削除しても、そのドメインに関連する管理サーバーまたはクラスタが完全には削除されない (6227939) 14
 - 1つのドメインに複数のクラスタを作成しているとき、ロードバランサの構成ファイルが正しく更新されない (6233520) 14
 - 2つの Domain Administration Server を同じホストで実行できない (6228738) 14
 - クラスタを削除するとき、ロードバランサの構成エントリが削除されない (6233521) 15
 - クラスタまたはサーバーインスタンスの JDBC リソースまたは JMS リソースを表示すると、ドメインのすべてのリソースが表示される (6235760) 15

- 3 Sun Java Enterprise System Application Server プラグインのインストールと構成 17**
 - Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの入手 17

N1 Grid Service Provisioning System への Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの追加 18

4 Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの使用法 19

N1 Grid Service Provisioning System 5.0 による Sun Java Enterprise System Application Server 環境のインストールと使用法 19

 プラグインの規定 19

 全体的な前提条件 20

 プロセスの概要 20

Sun Java Enterprise System Application Server ドメインインフラストラクチャーの作成 21

 ▼ Sun Java Enterprise System Application Server ソフトウェアをインストールする 21

 ▼ Sun Java Enterprise System Application Server Domain Administration Server を作成する 24

 ▼ Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスを作成する 27

 ▼ Sun Java Enterprise System Application Server クラスタを作成する 30

Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスとクラスタの管理 33

Sun Java Enterprise System Application Server ドメインと Domain Administration Server の管理 33

 ▼ Sun Java Enterprise System Application Server ドメインと Domain Administration Server を削除する 33

 ▼ 完全なドメインを起動する 34

 ▼ 完全なドメインを停止する 35

 ▼ Domain Administration Server を起動する 35

 ▼ Domain Administration Server を停止する 36

 ▼ Domain Administration Server が動作していることを確認する 36

Sun Java Enterprise System Application Server クラスタの管理 37

 ▼ Sun Java Enterprise System Application Server クラスタを削除する 37

 ▼ Sun Java Enterprise System Application Server クラスタを起動する 38

 ▼ Sun Java Enterprise System Application Server クラスタを停止する 38

 ▼ Sun Java Enterprise System Application Server クラスタが動作していることを確認する 39

Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスの管理 39

 ▼ Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスを削除する 39

 ▼ Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスを起動する 40

 ▼ Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスを停止する 40

▼ Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスが動作していることを確認する	41
Sun Java Enterprise System Application Server アプリケーションの取得とインストール	41
▼ Sun Java Enterprise System Application Server Enterprise Application を取得する	42
▼ Sun Java Enterprise System Application Server Enterprise Application をインストールする	42
▼ Sun Java Enterprise System Application Server Enterprise Application をアンインストールする	43
▼ Sun Java Enterprise System Application Server Web Application を取得する	44
▼ Sun Java Enterprise System Application Server Web Application をインストールする	45
▼ Sun Java Enterprise System Application Server Web Application をアンインストールする	46
Sun Java Enterprise System Application Server リソースの管理	46
Java Messaging Service (JMS) リソースの管理	47
▼ JMS リソースをホストにインストールする	47
▼ JMS リソースを作成する	48
▼ JMS リソースを削除する	49
Java Database Connectivity (JDBC) リソースの管理	49
▼ JDBC リソースをホストにインストールする	49
▼ JDBC リソースを作成する	50
▼ JDBC リソースを削除する	51
▼ JDBC リソースを一覧表示する	51
▼ JDBC 接続プールを作成する	52
▼ JDBC 接続プールを削除する	53
▼ JDBC 接続プールを一覧表示する	53
スレッドプールリソースの管理	54
▼ スレッドプールリソースをホストにインストールする	54
▼ スレッドプールリソースを作成する	55
▼ スレッドプールリソースを削除する	55
▼ ターゲット上のスレッドプールを一覧表示する	56
障害追跡	56
タスクの実行時にエラーが発生した場合	56

はじめに

このマニュアルでは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアを使用して、Sun Java Enterprise System Application Server アプリケーションとファイルを取得して配備する方法について説明します。

対象読者

このマニュアルの主な対象読者は、Sun Java Enterprise System Application Server の機能を N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアに組み込もうとしているシステム管理者および N1 Grid Service Provisioning System 5.0 ソフトウェアのオペレータです。これらのユーザーは、次のことに精通している必要があります。

- N1 Grid Service Provisioning System 5.0 製品
- UNIX® と Windows の一般的なコマンドとユーティリティー
- Sun Java Enterprise System Application Server 製品の一般的な概念と管理機能

お読みになる前に

まだ N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアの使用に関して知識が十分ではないユーザーは、次のマニュアルをお読みください。

- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 リリースノート』

内容の紹介

第1章では、このプラグインソリューションの概要を説明します。

第3章では、このプラグインをインストールして構成する方法について説明します。

第4章では、このプラグインを通じて、アプリケーションとファイルを取得して配備する方法、また、このプラグインにより提供される特定のコンポーネントタイプを説明します。

第三者の関連 Web サイト

このマニュアル内で参照している第三者の URL は、追加の関連情報を提供します。

注 - このマニュアル内で引用する第三者の Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の (あるいは主張される) 損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。

Sun のサービス	URL	内容
サポートおよびトレーニング	http://jp.sun.com/supporttraining/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep `^#define` \ XV_VERSION_STRING'</code>

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y |n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

第 1 章

Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの概要

この章では、N1 Grid Service Provisioning System を使用して、Sun Java Enterprise System Application Server アプリケーションをプロビジョニングする一般的な方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 11 ページの「Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの目的」
- 12 ページの「Sun Java Enterprise System Application Server プラグインに含まれるもの」
- 12 ページの「Sun Java Enterprise System Application Server プラグインを使用するための要件」

Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの目的

N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアは、Sun Java Enterprise System Application Server アプリケーションをサポートするための拡張機能を提供します。Application Server アプリケーションを参照サーバーから取得して、このアプリケーションの正確な構成方法を選択し、スタンドアロン、管理、またはクラスタ化された Application Server 環境に配備できます。

Application Server を手動でインストールして配備する代わりに、プロビジョニングシステムを使用すると、次のような利点があります。

- ホストセット内のすべてのホストに同時に配備できます。
- すべてのアプリケーションおよび管理サーバーで、システムが行なったすべてのアクションのログを詳細に記録して報告できます。これらのログは完全な監査履歴であり、すべてのホストに行われたすべての変更が記録されます。

Sun Java Enterprise System Application Server プラグインに含まれるもの

Sun Java Enterprise System Application Server プラグインには、Sun Java Enterprise System Application Server アプリケーションを簡単に取得、構成、および配備するための、Sun Java Enterprise System Application Server に固有のコンポーネントがいくつか含まれています。

Sun Java Enterprise System Application Server プラグインを使用するための要件

Sun Java Enterprise System Application Server プラグインを配備するホストは、次の要件に適合する必要があります。

オペレーティングシステム	Sun Java Enterprise System Application Server プラグインは、次のオペレーティングシステムで動作します。 <ul style="list-style-type: none">■ Solaris 8 (SPARC 版)■ Solaris 9 (SPARC 版)■ Solaris 10 (SPARC 版)■ Solaris 9 (x86 版)■ Solaris 10 (x86 版)■ Redhat Enterprise Linux 2.1 Update 2■ Redhat Enterprise Linux 3.0 Update 1
ディスク容量	Solaris の場合、最小で 250M バイトの空きディスク容量が必要です (500M バイトを推奨)。Redhat Enterprise Linux の場合、最小で 220M バイトの空きディスク容量が必要です (300M バイトを推奨)。
RAM	最小 512M バイト、推奨 1G バイト
Java 実行環境	J2SE 1.4.2_06 または J2SE 5.0

第 2 章

Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの リリースノート

この章では、Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの最新情報と既知の問題を説明します。

インストールに関する情報

次に、Sun Java Enterprise System Application Server プラグインをインストールするときに発生することが判明している問題を示します。

インストールが失敗したときにログファイルが指定した場所にないことがある (6256822)

インストールが失敗した場合、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Please check the installation log file under /tmp.
```

ログファイルの実際の場所は、[tempStateFile] 変数によって決定されます。デフォルトは /tmp です。[tempStateFile] を変更している場合、ログファイルは指定したディレクトリに格納されます。

実行時の問題

次に、Sun Java Enterprise System Application Server プラグインを実行するときに発生することが判明している問題を示します。

ドメインを削除しても、そのドメインに関連する管理サーバーまたはクラスタが完全には削除されない (6227939)

deleteDomain タスクは、指定されたドメインの管理サーバーとノードエージェントを完全には削除しません。これは、クラスタとサーバーインスタンスがまだ動作しているためです。

ドメインを削除する前に、そのドメインに関連するクラスタ、Domain Administration Server、およびサーバーインスタンスをすべて停止してください。

1つのドメインに複数のクラスタを作成しているとき、ロードバランサの構成ファイルが正しく更新されない (6233520)

1つのドメインに複数のクラスタを作成しており、ロードバランサを使用している場合、ロードバランサの構成ファイル loadbalancer.xml が適切に更新されません。ドメインの起動時、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Error occured while initializing Loadbalancer config Parser. Please check the config file:
```

回避方法は、1つのドメインで複数のクラスタを実行しないか、loadbalancer.xmlを一時的な場所書きだして、関連するセクションを Web サーバーの loadbalancer.xml にコピーするかのどちらかです。

2つの Domain Administration Server を同じホストで実行できない (6228738)

ポートの衝突のため、1つのホストでは複数の Domain Administration Server を実行できません。

クラスタを削除するとき、ロードバランサの構成エントリが削除されない (6233521)

ロードバランサを使用するドメインでクラスタを削除する場合、ロードバランサの構成ファイル `loadbalancer.xml` にあるそのクラスタのエントリは削除されません。

ロードバランサは利用できないノードを自動的に削除します。

クラスタまたはサーバーインスタンスの JDBC リソースまたは JMS リソースを表示すると、ドメインのすべてのリソースが表示される (6235760)

指定したターゲット (クラスタまたはサーバーインスタンス名) への `listJMSResources` タスクまたは `listJDBCResources` タスクの出力には、そのクラスタまたはサーバーインスタンスが動作しているドメインのすべてのリソースが表示されます。

第 3 章

Sun Java Enterprise System Application Server プラグインのイン ストールと構成

この章では、Sun Java Enterprise System Application Server プラグインをインストールして構成する方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 17 ページの「Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの入手」
- 18 ページの「N1 Grid Service Provisioning System への Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの追加」

Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの入手

Sun Java Enterprise System Application Server ソリューションは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアの「プラグイン」として提供されます。プラグインは、Java™ Archive (JAR) ファイルにパッケージされています。Sun Java Enterprise System Application Server ソリューションのプラグインファイルは、N1 Grid Service Provisioning System Supplement CD または Sun Download Center から入手できます。

N1 Grid Service Provisioning System への Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの追加

N1 Grid Service Provisioning System 製品にプラグインを認識させるには、そのプラグインをインポートする必要があります。プラグインをインポートするには、次の手順に従います (詳細は、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 システム管理者ガイド』の第 5 章「プラグインの管理」を参照)。

1. メインウィンドウの「Administrative」セクションで、「Plug-ins」をクリックします。
2. 「Plug-ins」ページの「Action」列で、「Import」をクリックします。
3. `com.sun.sjsas81_1.0.jar` ファイルをダウンロードする場所を決定します。
4. 「Continue to Import」ボタンをクリックします。

インポートが正常に終了すると、プラグインの詳細ページが開いて、そのプラグインが提供する中身が表示されます。

プラグインのアーカイブファイルは、コマンド行からもインポートできます。次のコマンドを使う

```
% cr_cli -cmd plg.p.add -path com.sun.sjsas81_1.0.jar -u username -p password
```

第 4 章

Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの使用 法

Sun Java Enterprise System Application Server プラグインは特定のコンポーネントタイプをいくつも備えています。Sun Java Enterprise System Application Server アプリケーションの使用に必要な機能を簡単に使用できます。この章では、次の内容について説明します。

- 19 ページの「N1 Grid Service Provisioning System 5.0 による Sun Java Enterprise System Application Server 環境のインストールと使用法」
- 21 ページの「Sun Java Enterprise System Application Server ドメインインフラストラクチャーの作成」
- 56 ページの「障害追跡」

N1 Grid Service Provisioning System 5.0 による Sun Java Enterprise System Application Server 環境のインストール と使用法

Application Server インスタンスとクラスタを作成して管理するには、まず、「Sun Java Enterprise System Application Server Common Tasks」ページを使用します。

プラグインの規定

プロビジョニングシステムを使用すると、アプリケーションをプロビジョニングおよび管理できます。

プランとコンポーネントプロシージャ

Sun Java Enterprise System Application Server プラグインは、タスクを実行するためのツールとして、プランとコンポーネントプロシージャの両方を提供します。プランを使用することによって、使用する機能に直接リンクできます。コンポーネントプロシージャを使用することによって、実行できるタスクの数が大幅に増えます。

全体的な前提条件

この節では、Sun Java Enterprise System Application Server プラグインを使用するための要件について説明します。

プロセスの概要

Sun Java Enterprise System Application Server 環境をプロビジョニングシステム内で作成するプロセスは、この環境をプロビジョニングシステムなしで作成するプロセスに似ています。

1. Application Server プラグインをインポートします。
2. Application Server セッション変数を設定します。
3. すべてのホストを準備します。
4. Application Server Domain Administration Server を作成します。
5. (任意) Application Server クラスタを作成します。
6. (任意) 新たに作成したクラスタにクラスタノードを追加します。
7. 新しい Application Server ドメインで Application Server インスタンスを作成します。
8. (任意) クラスタにサーバーインスタンスを関連付けます。
9. アプリケーションが使用する追加のリソースを作成します。
10. (任意) JMS サーバーを構成します。
11. アプリケーションファイル (EAR と WAR) を取得します。
12. ターゲットのインスタンスまたはクラスタにアプリケーションを配備します。

Sun Java Enterprise System Application Server ドメインインフラストラクチャの作成

この節では、Sun Java Enterprise System Application Server プラグインが提供する機能を活用できるように N1 Grid Service Provisioning System 5.0 インストールを準備する方法について説明します。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server ソフトウェアをインストールする

- 手順
1. 左側のコントロールパネルの「**Common Tasks**」セクションの下にある **Sun Java Enterprise System Application Server** アイコンを選択します。
 2. 「**SJSAS 8.1 Install Management: Install or Uninstall**」リンクをクリックします。
 3. 「**default: install**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Plan Parameters**」領域で、配備する **Install** コンポーネントの変数設定を選択します。

Install コンポーネントは Sun Java Enterprise System Application Server を Remote Agent にインストールします。Install コンポーネントをインストールしたあと、このコンポーネントをもう一度インストールし直す必要はありません。新しいドメインまたはサーバーインスタンスをインストールするプランを実行するとき、プロビジョニングシステムは、Install コンポーネントが `installPath` ディレクトリに存在するかどうかをチェックします。Install コンポーネントがすでにインストールされている場合、プロビジョニングシステムは Install コンポーネントをインストールし直しません。

- 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
- メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。

「**Select Variable Settings From List**」ウィンドウが表示されます。

- 新しい変数設定セットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
--------	---------------------

installDirectory	<p>必須。Sun Java Enterprise System Application Server ソフトウェアをインストールする場所。</p>
sourceImage	<p>必須。Sun Java Enterprise System Application Server パッケージインストールの場所。</p> <p>通常は、抽出した Sun Java Enterprise System Application Server インストーラが格納されている NFS マウントのディレクトリです。たとえば、sourceImage の値が</p> <pre>/net/mymachine/nfs/sjsappserver8.1</pre> <p>の場合、プラグインをインストールする前に、次の作業を実行します。</p> <pre>% mkdir /net/mymachine/nfs/sjsappserver8.1 % cd /net/mymachine/nfs/sjsappserver8.1 % unzip ../sjsas_ee-8_1_01_2005Q1-solaris-sparc.bin</pre>
installId	<p>必須。インストールされている Application Server ドメインとクラスタに Install コンポーネントを関連付ける一意の ID。</p>
adminUserId	<p>ドメインまたはクラスタの管理者のユーザー名。</p> <p>通常は、セッション変数から取得されます。</p>
adminPassword	<p>ドメインまたはクラスタの管理者ログイン用のパスワード。</p> <p>通常は、セッション変数から取得されます。</p>
httpLoadBalancerPluginType	<p>ドメインまたはクラスタで Web サーバーのロードバランサを使用している場合、ここに Web サーバーのタイプを入力します。有効なエントリは、「Sun ONE Web Server」または「Apache HTTP Server」です。</p> <p>この Web サーバーはすでにターゲットホストにインストールされている必要があります。</p>

<code>webserverInstallDirectory</code>	Web サーバーの場所。ロードバランサプラグインをインストールするときに使用されます。Sun ONE Web Server の場合、インスタンスディレクトリを入力します。Apache HTTP Server の場合、インストールディレクトリを入力します。
<code>webserverConfigDirectory</code>	ロードバランサ構成ファイル <code>loadbalancer.xml</code> を格納するディレクトリ。 この変数を設定するのは、ロードバランサプラグインがすでに Web サーバーゲートウェイホストにインストールされている場合だけです。
<code>adminPasswordEncryptedFlag</code>	<code>true</code> に設定した場合、管理者のパスワードは暗号化されます。デフォルトは <code>false</code> です。
<code>asadminPort</code>	Application Server ドメイン管理サーバーが待機するポート。デフォルトは 4849 です。
<code>adminWebPort</code>	配備された Web アプリケーションが動作するポート。デフォルトは 8090 です。
<code>instanceHTTPSPort</code>	セキュア HTTP (HTTPS) アプリケーションが動作するポート。デフォルトは 1043 です。
<code>createSamplesDomain</code>	<code>true</code> の場合、Application Server サンプルアプリケーションを持つドメインがインスタンスにインストールされます。デフォルトは <code>false</code> です。
<code>storeAdminAuth</code>	<code>true</code> の場合、管理者のパスワードはファイルに書き込まれます。デフォルトは <code>false</code> です。
<code>tempStateFile</code>	インストール中に使用される一時ファイルの場所。 この変数はできるだけ変更しないでください。

- ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートの詳細については、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

5. ターゲットホストを選択します。
Application Server ソフトウェアを Remote Agent にインストールします。
6. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
7. インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「**Perform Detailed Preflight**」を選択します。
8. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server Domain Administration Server を作成する

Domain Administration Server は Application Server ドメインを管理します。このサーバーは、個々のドメインを作成する前に、インストールする必要があります。Domain Administration Server をインストールするときには、初期ドメインを作成して、そのドメインを制御する管理サーバーを作成します。

始める前に Application Server ドメインを作成するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**AppServer 8.1**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」ドメインの下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: install**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Plan Parameters**」領域で、インストールする **Domain Administration Server** の変数設定を選択します。
 - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
 - メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。

「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

- 新しい変数設定セットを作成するには、「Create Set」を選択します。
次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	インストールイメージに Domain Administration Server を関連付ける一意の ID。
domainName	作成するドメインの名前。
adminUserId	ドメインまたはクラスタの管理者のユーザー名。
adminPassword	ドメインまたはクラスタの管理者ログイン用のパスワード。
adminHost	Domain Administration Server をインストールするホストの名前。
portRangePrefix	HTTP ポート範囲の接頭辞。たとえば、100 という値は HTTP ポート範囲が 10000 から始まることを意味します。デフォルトの値は 100 です。
httpListenerPort	HTTP リスナーポート。 portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 00 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、HTTP リスナーポートは 10000 になります。
httpsListenerPort	HTTPS リスナーポート。 portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 05 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、HTTPS リスナーポートは 10005 になります。
instancePort	Domain Administration Server のデフォルトのポート番号。

<code>iiopListenerPort</code>	Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。 <code>portRangePrefix</code> とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、 <code>portRangePrefix + 10</code> です。たとえば、 <code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、IIOP リスナーポートは 10010 になります。
<code>iiopsslListenerPort</code>	SSL 対応の Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。 <code>portRangePrefix</code> とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、 <code>portRangePrefix + 15</code> です。たとえば、 <code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、セキュア IIOP リスナーポートは 10015 になります。
<code>iiopsslmutualauthPort</code>	相互認証用の SSL 対応の Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。 <code>portRangePrefix</code> とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、 <code>portRangePrefix + 20</code> です。たとえば、 <code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、相互認証用セキュア IIOP リスナーポートは 10020 になります。
<code>jmsConnectorPort</code>	Java Messaging Service (JMS) コネクタが待機するポート。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、 <code>portRangePrefix + 25</code> です。たとえば、 <code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、JMS コネクタポートは 10025 になります。
<code>installDirectory</code>	Application Server をインストールする場所。

- ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットをインポートする方法についての詳細は、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Operation and Provisioning Guide』の「How to Run a Plan」を参照してください。

5. ターゲットホストを選択します。
Domain Administration Server とドメインを Remote Agent にインストールします。
6. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
7. インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「**Perform Detailed Preflight**」を選択します。
8. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスを作成する

Application Server インスタンスは1つのドメインで複数実行できます。

始める前に Application Server インスタンスを作成する前には、次の作業を行う必要があります。

- サーバーインスタンスを実行するドメインを作成します。
- Domain Administration Server が動作している必要があります。
- ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure**→**SJSAS 8.1 Managed Server Instances**」の下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: install**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Plan Parameters**」領域で、インストールする管理サーバーインスタンスの変数設定を選択します。
 - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。

- メニューから設定を選択できない場合は、「Select From List」をクリックします。

「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

- 新しい変数設定セットを作成するには、「Create Set」を選択します。
次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	ドメイン、クラスタ、ノードエージェント、および Application Server インスタンスを Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。
domainName	当該サーバーインスタンスを格納するドメイン名。
targetName	サーバーの名前。
portRangePrefix	HTTP ポート範囲の接頭辞。たとえば、100 という値は HTTP ポート範囲が 10000 から始まることを意味します。デフォルトの値は 100 です。
httpListenerPort	HTTP リスナーポート。 portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 00 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、HTTP リスナーポートは 10000 になります。
httpsListenerPort	HTTPS リスナーポート。 portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 05 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、HTTPS リスナーポートは 10005 になります。
iiopListenerPort	Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、

	portRangePrefix + 10 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、IIOP リスナーポートは 10010 になります。
iiopsslListenerPort	SSL 有効 Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 15 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、セキュア IIOP リスナーポートは 10015 になります。
iiopsslmutualauthPort	相互認証用の SSL 有効 Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。portRangePrefix とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 20 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、相互認証用セキュア IIOP リスナーポートは 10020 になります。
jmsConnectorPort	Java Messaging Service (JMS) コネクタが待機するポート。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、portRangePrefix + 25 です。たとえば、portRangePrefix が 100 に設定されている場合、JMS コネクタポートは 10025 になります。
clusterName	当該サーバーインスタンスが属するクラスタの名前。クラスタを指定しない場合、サーバーインスタンスはスタンドアロンサーバーになります。デフォルトでは、クラスタを指定しません。

■ ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットをインポートする方法についての詳細は、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Operation and Provisioning Guide』の「How to Run a Plan」を参照してください。

5. ターゲットホストを選択します。
サーバーインスタンスを Remote Agent にインストールします。
6. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
7. インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「**Perform Detailed Preflight**」を選択します。
8. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server クラスタを作成する

クライアントから見ると、クラスタは単一の Application Server インスタンスのように見えます。クラスタを構成するサーバーインスタンスは、同じマシン上で動作しても、異なるマシン上にあってもかまいません。クラスタ内の各クラスタメンバーは、同じバージョンの Application Server を実行する必要があります。

クラスタを使用すると、次のような利点があります。

- サーバーのフェイルオーバー機能によって、アプリケーションの可用性が向上します。
- 複数のサーバー間でアプリケーションをスケーリングすることによって、スループットが向上します。

始める前に クラスタを作成する前に、Application Server ドメインと Domain Administration Server を作成する必要があります。

クラスタを作成するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」クラスタの下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: install**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Plan Parameters**」領域で、インストールするクラスタの変数設定を選択します。

- 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
- メニューから設定を選択できない場合は、「Select From List」をクリックします。

「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

- 新しい変数設定セットを作成するには、「Create Set」を選択します。
次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
<code>installIdentifier</code>	ドメイン、クラスタ、ノードエージェント、および Application Server インスタンスを Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。
<code>domainName</code>	当該クラスタを格納するドメイン名。
<code>targetName</code>	クラスタの名前。
<code>portRangePrefix</code>	HTTP ポート範囲の接頭辞。たとえば、100 という値は HTTP ポート範囲が 10000 から始まることを意味します。デフォルトの値は 100 です。
<code>httpListenerPort</code>	HTTP リスナーポート。 <code>portRangePrefix</code> とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、 <code>portRangePrefix + 00</code> です。たとえば、 <code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、HTTP リスナーポートは 10000 になります。
<code>httpsListenerPort</code>	HTTPS リスナーポート。 <code>portRangePrefix</code> とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、 <code>portRangePrefix + 05</code> です。たとえば、 <code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、HTTPS リスナーポートは 10005 になります。
<code>iiopListenerPort</code>	Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。 <code>portRangePrefix</code> とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、

	<p>スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、<code>portRangePrefix + 10</code> です。たとえば、<code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、IIOP リスナーポートは 10010 になります。</p>
<code>iiopsslListenerPort</code>	<p>SSL 有効 Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。<code>portRangePrefix</code> とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、<code>portRangePrefix + 15</code> です。たとえば、<code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、セキュア IIOP リスナーポートは 10015 になります。</p>
<code>iiopsslmutualauthPort</code>	<p>相互認証用の SSL 有効 Internet Inter-Orb Protocol (IIOP) リスナーポート。<code>portRangePrefix</code> とともに使用します。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、<code>portRangePrefix + 20</code> です。たとえば、<code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、相互認証用セキュア IIOP リスナーポートは 10020 になります。</p>
<code>jmsConnectorPort</code>	<p>Java Messaging Service (JMS) コネクタが待機するポート。有効な範囲は 1 から 65553 までです。1 から 1024 までのポート番号の場合、スーパーユーザーのアクセス権が必要になります。デフォルトは、<code>portRangePrefix + 25</code> です。たとえば、<code>portRangePrefix</code> が 100 に設定されている場合、JMS コネクタポートは 10025 になります。</p>
<code>httpLoadBalancer</code>	<p><code>true</code> の場合、このクラスタに配備されたアプリケーションは負荷均衡されます。デフォルトは <code>false</code> です。</p>
<code>httpsLoadBalancer</code>	<p><code>true</code> の場合、HTTPS 要求に応答するアプリケーションは負荷均衡されます。<code>httpLoadBalancer</code> が <code>false</code> の場合、この変数による影響はありません。デフォルトは <code>false</code> です。</p>

routeCookie

true の場合、ロードバランサはクッキーを経路指定します。httpLoadBalancer が false の場合、この変数による影響はありません。デフォルトは false です。

- ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットをインポートする方法についての詳細は、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Operation and Provisioning Guide』の「How to Run a Plan」を参照してください。

5. ターゲットホストを選択します。
クラスタを Remote Agent にインストールします。
6. 「Target Host Set」チェックボックスを選択解除します。
7. インストールする前に詳細なチェック (preflight) を実行する場合は、「Perform Detailed Preflight」を選択します。
8. 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。

Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスとクラスタの管理

この節では、Sun Java Enterprise System Application Server 管理サーバーインスタンスとクラスタを管理する方法について説明します。

Sun Java Enterprise System Application Server ドメインと Domain Administration Server の管理

▼ Sun Java Enterprise System Application Server ドメインと Domain Administration Server を削除する

プロビジョニングシステムを通じて Application Server ドメインを削除すると、次の作業が自動的に実行されます。

- Domain Administration Server をアンインストールします。

- ドメイン内のすべての Managed Servers コンポーネントをアンインストールします。
- ドメイン内のすべてのクラスタコンポーネントをアンインストールします。
- アプリケーションコンポーネントとアプリケーションを削除します。

始める前に Application Server ドメインを削除するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを実行するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」ドメインの下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: uninstall**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Current Installations**」の下で、削除するドメインが動作しているインストールを選択します。
 5. 「**Run Plan (Includes Preflight)**」をクリックします。

▼ 完全なドメインを起動する

完全なドメインを起動すると、そのドメインの Domain Administration Server (まだ起動していない場合)、ドメイン内のすべてのクラスタ、およびドメイン内のすべての管理サーバーインスタンスが起動します。

始める前に Application Server ドメインを起動するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを実行するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」ドメインの下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: startCompletedDomain**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。

4. 「**Current Installations**」の下で、起動するドメインが構成されているインストールを選択します。
5. 「**Run Plan (Includes Preflight)**」をクリックします。

▼ 完全なドメインを停止する

完全なドメインを停止すると、特定のドメインについて、動作しているすべてのクラスと、動作しているすべての管理サーバーインスタンスが停止します。

始める前に Application Server ドメインを停止するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを実行するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」ドメインの下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: stopCompletedDomain**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Current Installations**」の下で、停止するドメインが動作しているインストールを選択します。
 5. 「**Run Plan (Includes Preflight)**」をクリックします。

▼ Domain Administration Server を起動する

始める前に Domain Administration Server を起動するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを実行するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」ドメインの下で、「**Manage**」をクリックします。

3. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: startDomainServer**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
4. 「**Current Installations**」の下で、起動するドメインが構成されているインストールを選択します。
5. 「**Run Plan (Includes Preflight)**」をクリックします。

▼ Domain Administration Server を停止する

始める前に Domain Administration Server を停止するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを実行するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」ドメインの下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: stopDomainServer**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Current Installations**」の下で、起動するドメインが構成されているインストールを選択します。
 5. 「**Run Plan (Includes Preflight)**」をクリックします。

▼ Domain Administration Server が動作していることを確認する

Domain Administration Server は、特定のインストールで動作していることを確認できます。

始める前に Domain Administration Server が動作していることを確認するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを実行するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。

2. 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1」ドメインの下で、「Manage」をクリックします。
3. 「Component Procedures」の下で、「default: verifyDomainServerIsRunning」の隣にある「Run」アクションをクリックします。
4. 「Current Installations」の下で、確認する Domain Administration Server が構成されているインストールを選択します。
5. 「Run Plan (Includes Preflight)」をクリックします。

Sun Java Enterprise System Application Server クラスタの管理

▼ Sun Java Enterprise System Application Server クラスタを削除する

クラスタを削除すると、そのクラスタに関連するすべてのクラスタメンバーも削除されます。

始める前に クラスタを削除するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「Sun Java System AS 8」をクリックします。
 2. 「SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1」クラスタの下で、「Manage」をクリックします。
 3. 「Component Procedures」の下で、「default: uninstall」の隣にある「Run」アクションをクリックします。
 4. 「Current Installations」の下で、削除するクラスタが動作しているインストールを選択します。
 5. 「Run Plan (Includes Preflight)」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server クラスタを起動する

始める前に クラスタを起動するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」クラスタの下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**start**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Current Installations**」の下で、起動するクラスタが構成されているインストールを選択します。
 5. 「**Run Plan (Includes Preflight)**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server クラスタを停止する

始める前に クラスタを停止するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」クラスタの下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**stop**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Current Installations**」の下で、停止するクラスタが構成されているインストールを選択します。
 5. 「**Run Plan (Includes Preflight)**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server クラスタが動作していることを確認する

始める前に クラスタが動作していることを確認するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1**」クラスタの下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**verifyClusterRunning**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Current Installations**」の下で、確認するクラスタが構成されているインストールを選択します。
 5. 「**Run Plan (Includes Preflight)**」をクリックします。

Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスの管理

▼ Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスを削除する

始める前に サーバーインスタンスを削除するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1 Managed Server Instances**」の下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: uninstall**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。

4. 「**Current Installations**」の下で、削除するサーバーインスタンスが構成されているインストールを選択します。
5. 「**Run Plan (Includes Preflight)**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスを起動する

始める前に サーバーインスタンスを起動するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1 Managed Server Instances**」の下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**start**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Current Installations**」の下で、起動するサーバーインスタンスが構成されているインストールを選択します。
 5. 「**Run Plan (Includes Preflight)**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスを停止する

始める前に サーバーインスタンスを停止するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1 Managed Server Instances**」の下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**stop**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。

4. 「**Current Installations**」の下で、停止するサーバーインスタンスが構成されているインストールを選択します。
5. 「**Run Plan (Includes Preflight)**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server インスタンスが動作していることを確認する

始める前に サーバーインスタンスが動作していることを確認するには、ユーザーは、当該コンポーネントが入っているフォルダに「Run Component Procedures」アクセス権を持つユーザーグループに属している必要があります。さらに、ユーザーは、当該コンポーネントを配備するホストセットに「Allow on Host Set」アクセス権を持っている必要があります。

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS 8.1 AppServer infrastructure→SJSAS 8.1 Managed Server Instances**」の下で、「**Manage**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**verifyClusterRunning**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Current Installations**」の下で、確認するサーバーインスタンスが構成されているインストールを選択します。
 5. 「**Run Plan (Includes Preflight)**」をクリックします。

Sun Java Enterprise System Application Server アプリケーションの取得とインストール

この節では、Sun Java Enterprise System Application Server アプリケーションを管理する方法について説明します。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server Enterprise Application を取得する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS Application Tasks→Enterprise Applications (EARs)**」の下で、「**Create New**」をクリックします。
 3. このコンポーネントのコンポーネントディレクトリを入力します。
com/sun/sjsas81 ネームスペースは有効ではありません。
 4. このコンポーネントのラベルを入力します。
 5. このコンポーネントの説明を入力します。
 6. **EAR** ファイルを格納するホストを入力します。
リストからホストを選択するには、「**Select From List**」をクリックします。
 7. **EAR** の場所を見つけます。
 - a. **EAR** へのパスが判明している場合は、「**com.sun.sjsas81#EntappCT path**」に入力します。
 - b. 選択したホストをブラウズするには、そのディレクトリを選択して、「**Open Highlighted Item**」をクリックします。
 8. **EAR** を選択して、「**Open Highlighted Item**」をクリックします。
 9. 「**Check In Selected Item**」をクリックします。
 10. チェックインページの情報を確認して、「**Continue to Check-in**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server Enterprise Application をインストールする

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS Application Tasks→Enterprise Applications (EARs)**」の下で、「**View All**」をクリックします。
 3. インストールする **EAR** の名前をクリックします。

4. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: install**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
5. 「**Plan Parameters**」領域で、インストールする **EAR** の変数設定を選択します。
 - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
 - メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。
「**Select Variable Settings From List**」ウィンドウが表示されます。
 - 新しい変数設定セットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。
次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	EAR を Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。
domainName	当該 EAR をインストールするドメイン名。
targetName	EAR を配備するクラスタまたはサーバーインスタンスの名前。
 - ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。
変数セットをインポートする方法についての詳細は、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Operation and Provisioning Guide』の「**How to Run a Plan**」を参照してください。
6. ターゲットホストを選択します。
7. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
8. インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「**Perform Detailed Preflight**」を選択します。
9. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server Enterprise Application をアンインストールする

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。

2. 「**SJSAS Application Tasks→Enterprise Applications (EARs)**」の下で、「**View All**」をクリックします。
3. アンインストールする **EAR** の名前をクリックします。
4. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: uninstall**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
5. **EAR** を削除するインストールを選択します。
6. 「**Run Selected Installations**」をクリックします。
7. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server Web Application を取得する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS Application Tasks→Web Applications (WARs)**」の下で、「**Create New**」をクリックします。
 3. このコンポーネントのコンポーネントディレクトリを入力します。
com/sun/sjsas81 ネームスペースは有効ではありません。
 4. このコンポーネントのラベルを入力します。
 5. このコンポーネントの説明を入力します。
 6. **WAR** ファイルを格納するホストを入力します。
リストからホストを選択するには、「**Select From List**」をクリックします。
 7. **WAR** の場所を見つけます。
 - a. **WAR** へのパスが判明している場合は、「**ccom.sun.sjsas81#WebappCT path**」に入力します。
 - b. 選択したホストをブラウズするには、そのディレクトリを選択して、「**Open Highlighted Item**」をクリックします。
 8. **WAR** を選択して、「**Open Highlighted Item**」をクリックします。
 9. 「**Check In Selected Item**」をクリックします。
 10. チェックインページの情報を確認して、「**Continue to Check-in**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server Web Application をインストールする

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS Application Tasks**→**Web Applications (WARs)**」の下で、「**view all**」をクリックします。
 3. インストールする **WAR** の名前をクリックします。
 4. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: install**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 5. 「**Plan Parameters**」領域で、インストールする **WAR** の変数設定を選択します。
 - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
 - メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。

「**Select Variable Settings From List**」ウィンドウが表示されます。

 - 新しい変数設定セットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。

次のリストに、**Install** コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	WAR を Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。
domainName	当該 WAR をインストールするドメイン名。
targetName	WAR を配備するクラスタまたはサーバーインスタンスの名前。
 - ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。

変数セットをインポートする方法についての詳細は、『**N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Operation and Provisioning Guide**』の「**How to Run a Plan**」を参照してください。
 6. ターゲットホストを選択します。
 7. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
 8. 「**Plan Variables**」の下で、**Web** アプリケーションのコンテキストルートを設定します。

9. インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「**Perform Detailed Preflight**」を選択します。
10. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ Sun Java Enterprise System Application Server Web Application をアンインストールする

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS Application Tasks→Web Applications (WARs)**」の下で、「**View All**」をクリックします。
 3. アンインストールする **WAR** の名前をクリックします。
 4. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: uninstall**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 5. **WAR** を削除するインストールを選択します。
 6. 「**Run Selected Installations**」をクリックします。
 7. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

Sun Java Enterprise System Application Server リソースの管理

この節では、次に示す Sun Java Enterprise System Application Server リソース (JMS リソース、JDBC リソース、スレッドプール) を管理する方法について説明します。

Java Messaging Service (JMS) リソースの管理

▼ JMS リソースをホストにインストールする

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 JMS Resource**」の下で、「**Manage JMS Resources**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: install**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Plan Parameters**」領域で、インストールする **JMS Resource** の変数設定を選択します。
 - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
 - メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。

「**Select Variable Settings From List**」ウィンドウが表示されます。

 - 新しい変数設定セットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。

次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	JMS Resource を Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。
domainName	当該 JMS Resource を格納するドメイン名。
 - ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。

変数セットをインポートする方法についての詳細は、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Operation and Provisioning Guide』の「How to Run a Plan」を参照してください。
 5. ターゲットホストを選択します。
 6. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
 7. インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「**Perform Detailed Preflight**」を選択します。
 8. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ JMS リソースを作成する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 JMS Resource**」の下で、「**Manage JMS Resources**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**createJMSResource**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. **JMS** リソースを作成するインストールを選択します。
 5. 「**Plan Variables**」の下で、
 - a. リソースタイプを選択します。リソースタイプは次の **1** つです。
 - Topic
 - Queue
 - ConnectionFactory
 - TopicConnectionFactory
 - QueueConnectionFactory
 - b. リソースの **JNDI** 名を入力します。
 - c. リソースを作成するターゲットクラスまたはサーバーの名前を入力します。
 - d. (任意) リソースの説明を入力します。
 - e. **JMS** プロパティをコロン (:) で区切って入力します。
有効なプロパティ名は次のとおりです。
 - ClientId
 - AddressList
 - MessageServiceAddressList
 - Username
 - Password
 - ReconnectEnabled
 - ReconnectAttempts
 - ReconnectInterval
 - AddressListBehavior
 - AddressListIterations
 6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ JMS リソースを削除する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 JMS Resource**」の下で、「**Manage JMS Resources**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**deleteJMSResource**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. **JMS** リソースを削除するインストールを選択します。
 5. 「**Plan Variables**」の下で、
 - a. 削除するリソースの **JNDI** 名を入力します。
 - b. 削除するリソースのターゲット名を入力します。
 6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

Java Database Connectivity (JDBC) リソースの管理

▼ JDBC リソースをホストにインストールする

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 JDBC Resource**」の下で、「**Manage JDBC Resources**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: install**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Plan Parameters**」領域で、インストールする **JDBC Resource** の変数設定を選択します。
 - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
 - メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。
「**Select Variable Settings From List**」ウィンドウが表示されます。
 - 新しい変数設定セットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。

次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	JDBC Resource を Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。
domainName	当該 JDBC Resource を格納するドメイン名。

- ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットをインポートする方法についての詳細は、『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Operation and Provisioning Guide』の「How to Run a Plan」を参照してください。

5. ターゲットホストを選択します。
6. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
7. インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「**Perform Detailed Preflight**」を選択します。
8. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ JDBC リソースを作成する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 JDBC Resource**」の下で、「**Manage JDBC Resources**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**createJDBCResource**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. JDBC リソースを作成するインストールを選択します。
 5. 「**Plan Variables**」の下で、
 - a. 「**Connection Pool**」の名前を設定します。
 - b. リソースの **JNDI** 名を入力します。
 - c. リソースを作成するターゲットクラスタまたはサーバーの名前を入力します。
 - d. (任意) リソースの説明を入力します。
 - e. JDBC プロパティをコロン (**:**) で区切って入力します。

6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ JDBC リソースを削除する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 JDBC Resource**」の下で、「**Manage JDBC Resources**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**deleteJDBCResource**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. JDBC リソースを削除するインストールを選択します。
 5. 「**Plan Variables**」の下で、
 - a. 削除するリソースの **JNDI** 名を入力します。
 - b. 削除するリソースのターゲットクラスまたはサーバーインスタンスの名前を入力します。
 6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ JDBC リソースを一覧表示する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 JDBC Resource**」の下で、「**Manage JDBC Resources**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**listJDBCResources**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. JDBC リソースを一覧表示するインストールを選択します。
 5. 「**Plan Variables**」の下で、削除するリソースのターゲットクラスまたはサーバーインスタンスの名前を入力します。
 6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ JDBC 接続プールを作成する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 JDBC Resource**」の下で、「**Manage JDBC Resources**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**createJDBCConnectionPool**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 接続プールを作成するインストールを選択します。
 5. 「**Plan Variables**」の下で、
 - a. 「**Connection Pool**」の名前を設定します。
 - b. (任意) 接続プールの説明を入力します。
 - c. 接続プールの **JDBC** データソースリソースマネージャーを入力します。
 - d. データソースクラス実装のインタフェースを入力します。
有効なエントリは次のとおりです。
 - DataSource
 - ConnectionPoolDataSource
 - XADataSource
 - e. プールが作成する接続の最小数を入力します。
 - f. プールが保守する接続の最大数を入力します。
 - g. タイムアウトタイマーが満了したときに削除する接続の数を入力します。
 - h. プール内で接続がアイドル状態になることができる最大時間 (秒) を入力します。
 - i. 接続プールのトランザクション遮断レベルを入力します。
有効なエントリは次のとおりです。
 - read-uncommitted
 - read-committed
 - repeatable-read
 - serializableエントリが空白の場合、JDBC ドライバのデフォルトの遮断レベルが使用されます。
 - j. 接続をアプリケーションに割り当てる前に、その接続を検証するかどうかを指定します。有効なエントリは **true** または **false** です。

- k. JDBC ドライバの属性名と値のペアを入力します。
- 6. 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。

▼ JDBC 接続プールを削除する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「Sun Java System AS 8」をクリックします。
 2. 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 JDBC Resource」の下で、「Manage JDBC Resources」をクリックします。
 3. 「Component Procedures」の下で、「deleteJDBCConnectionPool」の隣にある「Run」アクションをクリックします。
 4. JDBC リソースを削除するインストールを選択します。
 5. 「Plan Variables」の下で、
 - a. 削除する接続プールの名前を入力します。
 - b. 接続プールに関連するすべてのコネクタリソースも削除するかどうかを指定します。有効なエントリは **true** または **false** です。
 6. 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。

▼ JDBC 接続プールを一覧表示する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「Sun Java System AS 8」をクリックします。
 2. 「SJSAS AppServer Resources→SJSAS 8.1 JDBC Resource」の下で、「Manage JDBC Resources」をクリックします。
 3. 「Component Procedures」の下で、「listJDBCConnectionPools」の隣にある「Run」アクションをクリックします。
 4. JDBC リソースを一覧表示するインストールを選択します。
 5. 「Run Plan (includes preflight)」をクリックします。

スレッドプールリソースの管理

▼ スレッドプールリソースをホストにインストールする

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 Threadpool Resource**」の下で、「**Manage Threadpool Resources**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**default: install**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 「**Plan Parameters**」領域で、インストールする **Thread Pool Resource** の変数設定を選択します。
 - 当該コンポーネントの変数設定が確立されている場合、メニューから適切な設定を選択します。
 - メニューから設定を選択できない場合は、「**Select From List**」をクリックします。

「**Select Variable Settings From List**」ウィンドウが表示されます。

 - 新しい変数設定セットを作成するには、「**Create Set**」を選択します。

次のリストに、Install コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。

変数セット名	必須。新たに作成する変数セットの名前。
installIdentifier	スレッドプールリソースを Install コンポーネントに関連付ける一意の ID。
domainName	当該スレッドプールリソースを格納するドメイン名。

 - ほかのコンポーネントの変数セットを使用するには、「**Import Set**」をクリックします。

変数セットをインポートする方法についての詳細は、『**N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Operation and Provisioning Guide**』の「**How to Run a Plan**」を参照してください。
 5. ターゲットホストを選択します。
 6. 「**Target Host Set**」チェックボックスを選択解除します。
 7. インストールする前に詳細なチェック (**preflight**) を実行する場合は、「**Perform Detailed Preflight**」を選択します。

8. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ スレッドプールリソースを作成する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 Threadpool Resource**」の下で、「**Manage Threadpool Resources**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**createThreadpool**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. 接続プールを作成するインストールを選択します。
 5. 「**Plan Variables**」の下で、
 - a. スレッドプール ID を入力します。
 - b. 要求を処理するスレッドプール内のスレッドの最大数を入力します。
 - c. 要求を処理するスレッドプール内のスレッドの最小数を入力します。
 - d. タイムアウト値 (秒) を入力します。このあと、アイドルスレッドはプールに戻ります。
 - e. スレッドプールが処理する作業用待ち行列の合計数を入力します。
 - f. スレッドプールを作成するクラスタまたはサービスインスタンスの名前を入力します。
 6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ スレッドプールリソースを削除する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 Threadpool Resource**」の下で、「**Manage Threadpool Resources**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**deleteThreadpool**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. スレッドプールを削除するインストールを選択します。

5. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

▼ ターゲット上のスレッドプールを一覧表示する

- 手順
1. ブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**Sun Java System AS 8**」をクリックします。
 2. 「**SJSAS AppServer Resources**→**SJSAS 8.1 Threadpool Resource**」の下で、「**Manage Threadpool Resources**」をクリックします。
 3. 「**Component Procedures**」の下で、「**listThreadpools**」の隣にある「**Run**」アクションをクリックします。
 4. スレッドプールを一覧表示するインストールを選択します。
 5. 「**Plan Variables**」の下で、スレッドプールを一覧表示するターゲットクラスまたはサーバーインスタンスの名前を入力します。
 6. 「**Run Plan (includes preflight)**」をクリックします。

障害追跡

この節では、Sun Java Enterprise System Application Server プラグインの使用中に発生する可能性がある一般的な問題について説明します。

タスクの実行時にエラーが発生した場合

タスクの実行時にエラーが発生した場合、次のような一般的な間違いをしていないことを再度確認してください。

変数名を確認する

プランが使用する変数セットを作成している場合、間違った変数値を入力していることがよくあります。たとえば、ドメイン名の代わりにクラスタ名を間違って入力しているなどです。

ポートが利用できない

変数セットでポート範囲を入力している場合、そのポートがターゲットホストまたはホストセットで利用できることを確認します。

アプリケーションのインストール時のコンポーネントディレクトリネームスペースの問題

ユーザー独自のアプリケーションを使用する場合、`com.sun.sjsas81` ネームスペースは無効です。アプリケーションのコンポーネントディレクトリを入力するとき、デフォルトでは `com.sun.sjsas81` が選択されているため、必ず、ネームスペースを変更してください。

インストール時の問題

プラグインコンポーネントをインストールしようとしたときにエラーが発生した場合、`sourceImage` 変数が指すディレクトリに Sun Java Enterprise System Application Server の有効なインストールイメージが格納されていることを確認してください。

索引

D

Domain Administration Server

- 確認, 36-37
- 管理, 33-37
- 起動, 35-36
- 削除, 33-34
- 作成, 24-27
- 停止, 36

E

EAR, 42-43, 43-44

J

JAR ファイル, 17

Java アーカイブ, 「JAR ファイル」を参照

JDBC, 49-53

JDBC 接続プール, 「接続プール」を参照

JDBC リソース

- 一覧表示, 51
- 管理, 49-53
- 削除, 51
- 作成, 50-51

JMS リソース, 47-49

- インストール, 47
- 削除, 49
- 作成, 48

W

WAR, 44, 46

Web アプリケーション, 44, 45-46, 46

あ

アプリケーション

- Web, 44, 45-46, 46
- アンインストール, 43-44, 46
- インストール, 41-46, 45-46
- エンタープライズ, 42-43, 43-44
- 取得, 41-46

アンインストール

- アプリケーション, 43-44, 46

い

一覧表示

- JDBC リソース, 51
- スレッドプール, 56
- 接続プール, 53

インストール

- JMS リソース, 47
- Sun Java Enterprise System Application Server, 21-24
- アプリケーション, 41-46, 45-46
- スレッドプール, 54-55

え

エラー, 56-57
エンタープライズアプリケーション, 42-43,
43-44

か

確認

Domain Administration Server, 36-37
クラスタ, 39
サーバーインスタンス, 41

管理

Domain Administration Server, 33-37
JDBC リソース, 49-53
クラスタ, 33-41
サーバーインスタンス, 33-41
スレッドプール, 54-56
ドメイン, 33-37
リソース, 46-56

き

起動

Domain Administration Server, 35-36
クラスタ, 38
サーバーインスタンス, 40
ドメイン, 34-35

く

クラスタ

確認, 39
管理, 33-41
起動, 38
削除, 37
作成, 30-33
停止, 38

さ

サーバーインスタンス

確認, 41
管理, 33-41
起動, 40

サーバーインスタンス (続き)

削除, 39-40
作成, 27-30
停止, 40-41

サーバー要件, 12

削除

Domain Administration Server, 33-34
JDBC リソース, 51
JMS リソース, 49
クラスタ, 37
サーバーインスタンス, 39-40
スレッドプール, 55-56
接続プール, 53
ドメイン, 33-34

作成

Domain Administration Server, 24-27
JDBC リソース, 50-51
JMS リソース, 48
クラスタ, 30-33
サーバーインスタンス, 27-30
スレッドプール, 55
接続プール, 52-53

し

取得

アプリケーション, 41-46

障害追跡, 56-57

す

スレッドプール

一覧表示, 56
インストール, 54-55
管理, 54-56
削除, 55-56
作成, 55

せ

接続プール

一覧表示, 53
削除, 53
作成, 52-53

て

停止

- Domain Administration Server, 36
- クラスタ, 38
- サーバーインスタンス, 40-41

と

ドメイン

- 管理, 33-37
- 起動, 34-35
- 削除, 33-34

ふ

プラグイン

- インポート, 18
- 部品, 12
- 要件, 12
- プラグインのインポート, 18
- プラグインファイル
 - インポート, 18
 - 場所, 17

よ

- 要件, 12

り

リソース

- JMS, 47-49
- 管理, 46-56

